



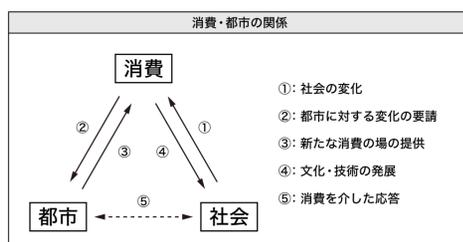
埋立と埋葬のはざままで

谷戸の埋立地と共に埋立 / 埋葬されていく葬斎場

Program : Funeral Home, Crematorium
Site : Asamizodai, Minami Ward, Sagami-hara, Kanagawa

1-1. はじめに 消費と都市の関係から生成される埋立地

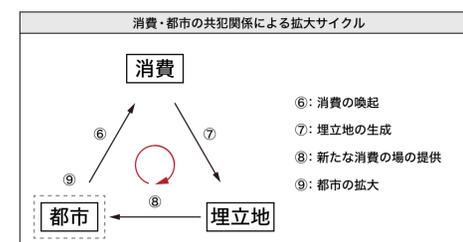
私は修士研究において、消費社会学と都市社会学の両側面から都市と消費の関係について研究を行なった。その結果として、消費が都市に変化を要請するという構図が浮かび上がったのだが、私は消費と都市の密接な関係を目の当たりにし、その相互的な関係の結果として生成されてゆく埋立地という存在自体に強い関心を寄せるようになった。



1-2. 計画の背景 / 目的 拡大サイクルの証人としての建築

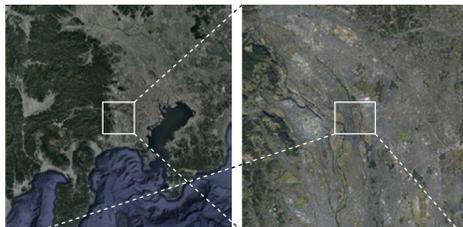
埋立地は都市の消費が行き着く不可逆的な最終地点である。そしてそれは消費の中心地である都市から隔絶された、人気のない港湾地帯もしくは郊外に設けられ、人知れず、粛々と埋立という行為が行われている。さらに、埋立地の多くは跡地利用という形で再び都市と消費サイクルの一部に組み込まれ、都市が拡大

してゆくのである。また、埋立後にこれを認識することは困難で、都市は埋立によって拡大した形跡をほとんど残さず、埋立地の上に都市の新たな消費の場を形成する。私はこのことから、消費と都市の共犯関係による拡大サイクルの証人としての建築設計を、修士制作において試みることを考えていた。



2-1. 計画敷地の選定 谷戸の埋立地と墓地/変化する環境

本制作の敷地は相模川左岸に上・中・下3段の河岸段丘からなる相模原台地の「上段」にあり、南北に伸びる細長い谷戸の際に位置している。そして、その谷戸には近くの清掃工場から排出される焼却灰の埋立と、市営の墓地が存在している。また、埋立跡地は自治体によって近隣の既存公園の一部として整備される計画だ。



本敷地を選定した理由としては、埋立によって大きな環境の変化が起きており、跡地利用という形で都市に吸収されようとしているということ。そして、それによって発生する公園と墓地の関係に関心を持ったからである。前述した都市の消費へと再帰するサイクルからは逸れるが、都市の消費が引き起こした事象に他ならないと考え、本制作では埋立地によって変化する環境と向き合うような建築設計を行うこととした。

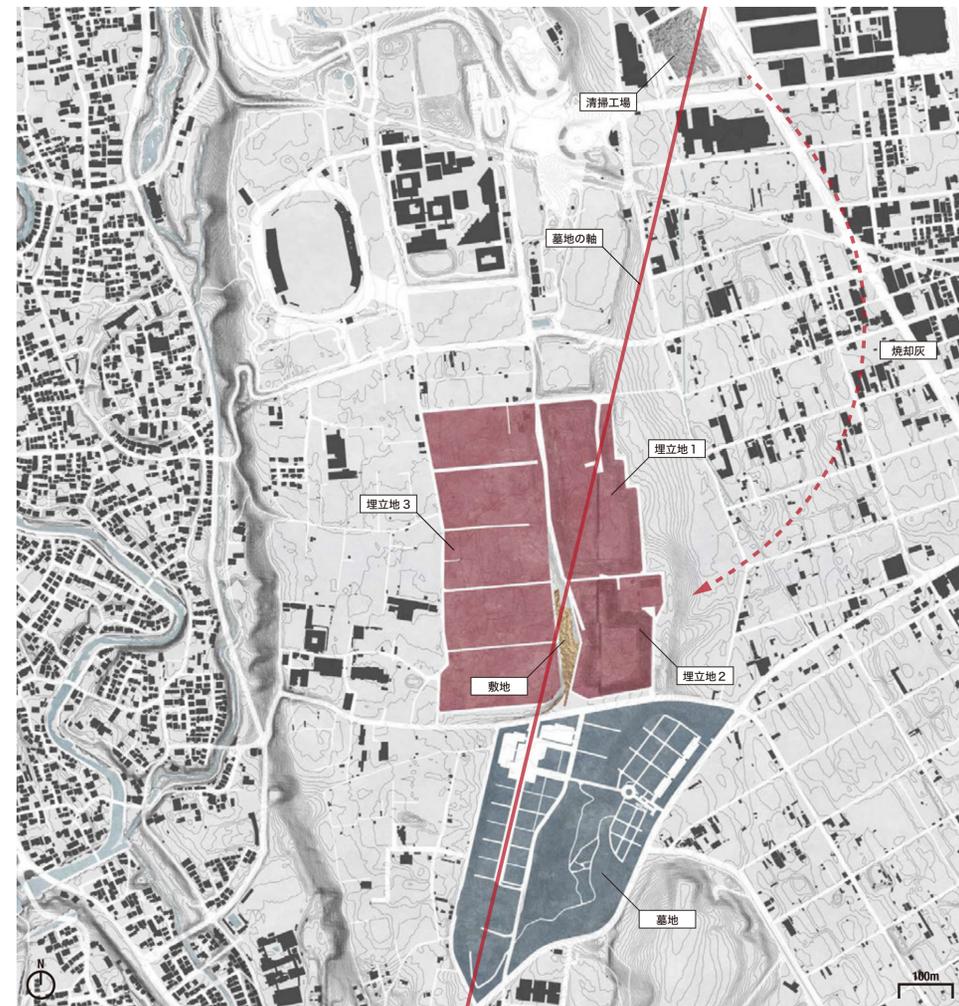
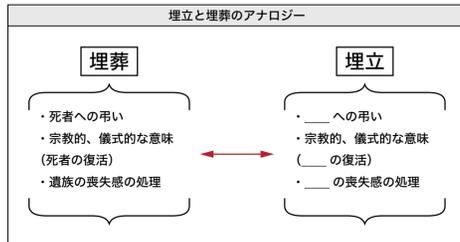


2-2. 計画敷地の概要 都市の墓としての埋立地

谷戸の地形は明確に体感できるほどの高低差があり、その高低差を埋めるように埋立地のボリュームが現れる。そして、墓地のメインのアプローチの延長線上に、清掃工場の煙突が見えたのが印象的だった。

埋立地と墓地は道を挟んで対峙しており、その構図は否応なしに埋立と埋葬という二つの行為を比較させる。私は谷戸という同じ空間の中で並行して行われる埋立と埋葬に、強烈な類似性を感じた。人が墓地で埋葬されるように、都市の一部が埋立地で埋立、或いは埋葬されているように感じたのである。

私は埋葬を埋立のアナロジーとして捉え、埋立地を都市の墓として再解釈する。そして、二つの行為のはざまに故人を弔うための場として、また、埋め立てられていく都市の一部を弔う存在としての建築の設計を試みる。

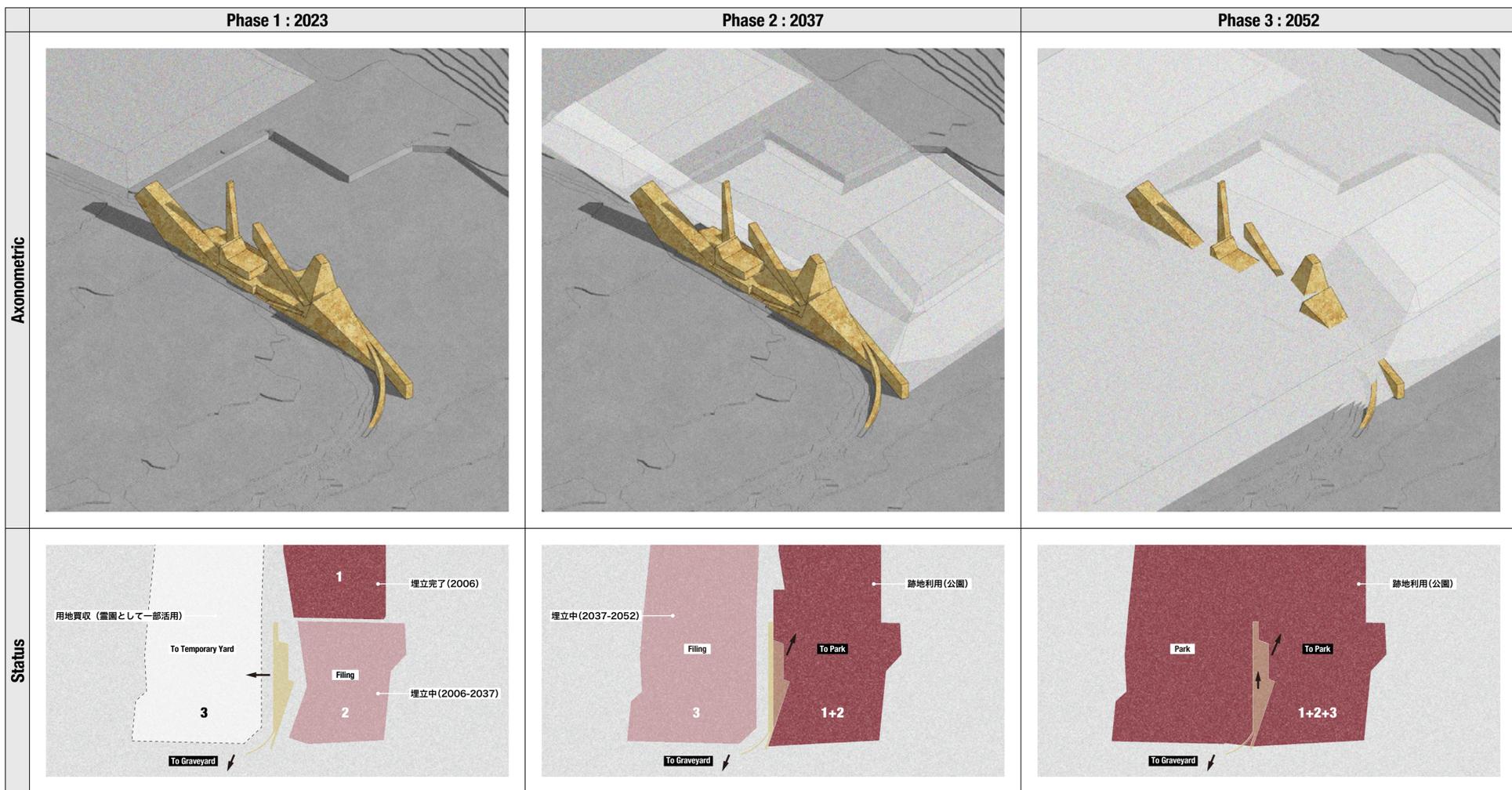
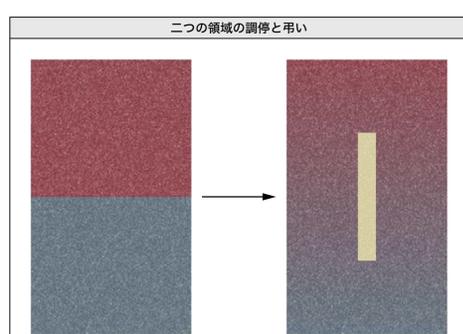
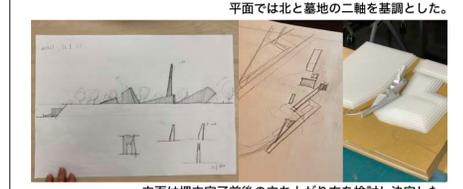


3-1. 計画の概要 共に埋立/埋葬される建築

私は埋立と埋葬のはざまであるこの場所に、共に埋立、或いは埋葬されてゆく建築を提案する。葬斎場をプログラムとして内包するその建築は、埋立と埋葬という二つの儀式を調停し、両者を弔う存在として起立する。

埋立が進行するにつれて建築の外形は失われてゆき、それと同時に建築とその内部で行われる儀式との関係が変化してゆく。また、それと同時に外部環境の変化が弔いのあり方に変化を引き起こす。葬斎場では多くの待ち時間が存在し、その時間を建築の内外を巡ることで解消するといったことが起きる。しかし、その時間もまた故人を弔うための時間でもあると考え、その巡り方が変化するような構成とした。

最終的に埋立が完了すると、この建築は過去にここで埋立という行為が行われていたことを示唆する標として、つまり埋立の墓標として立ち上がり、埋め立てられたものを弔いながら、かつて谷戸であった場所の風景に存在してゆく。そして、この建築が存在することによって、埋立完了後に現れる公園と墓地という二つの場所が調停される。また、本来であれば隣接することはない公園と葬斎場が隣接することになり、特異な状況を生み出す。これによって遺族が公園を巡るかもしれないし、公園で遊ぶ子供たちが葬斎場に迷い込むかもしれない。そのような偶発性を生む存在にこの建築はなるのである。





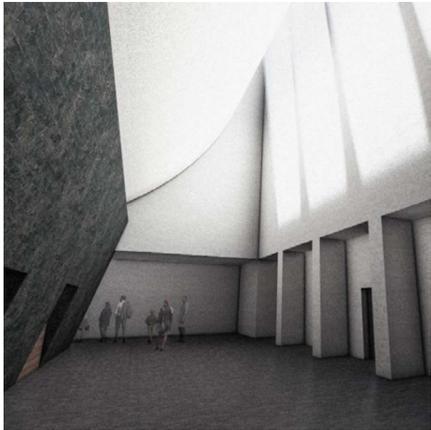
4F 共有ラウンジから公園を見る



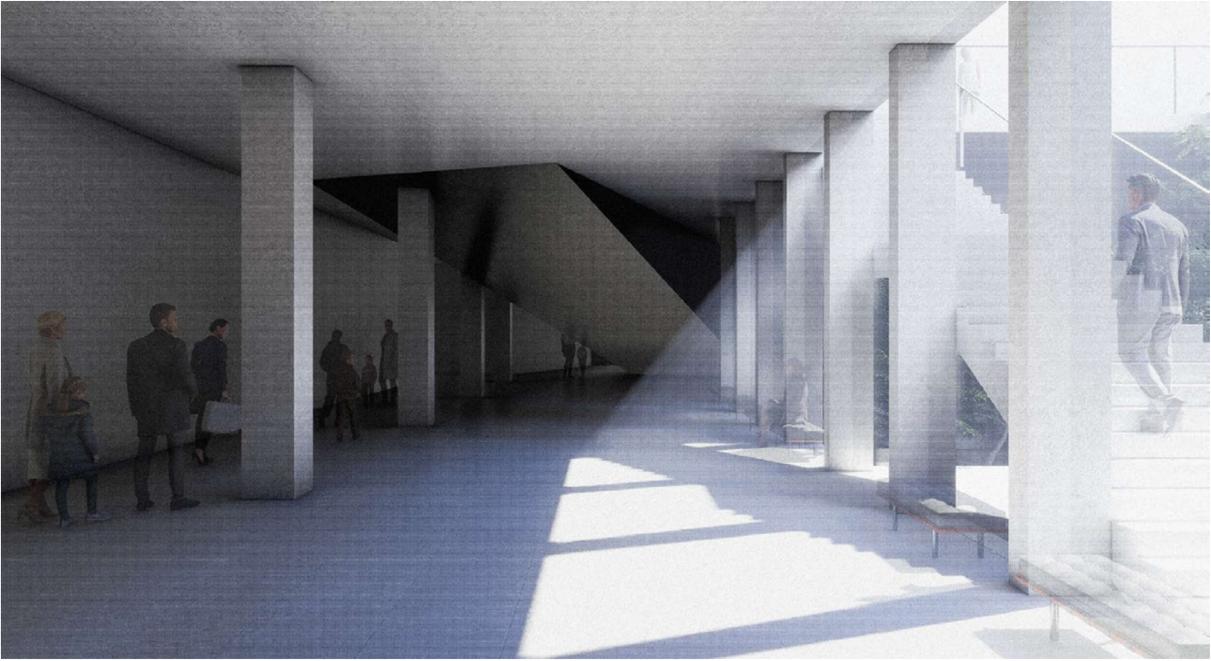
2F 共有ラウンジ



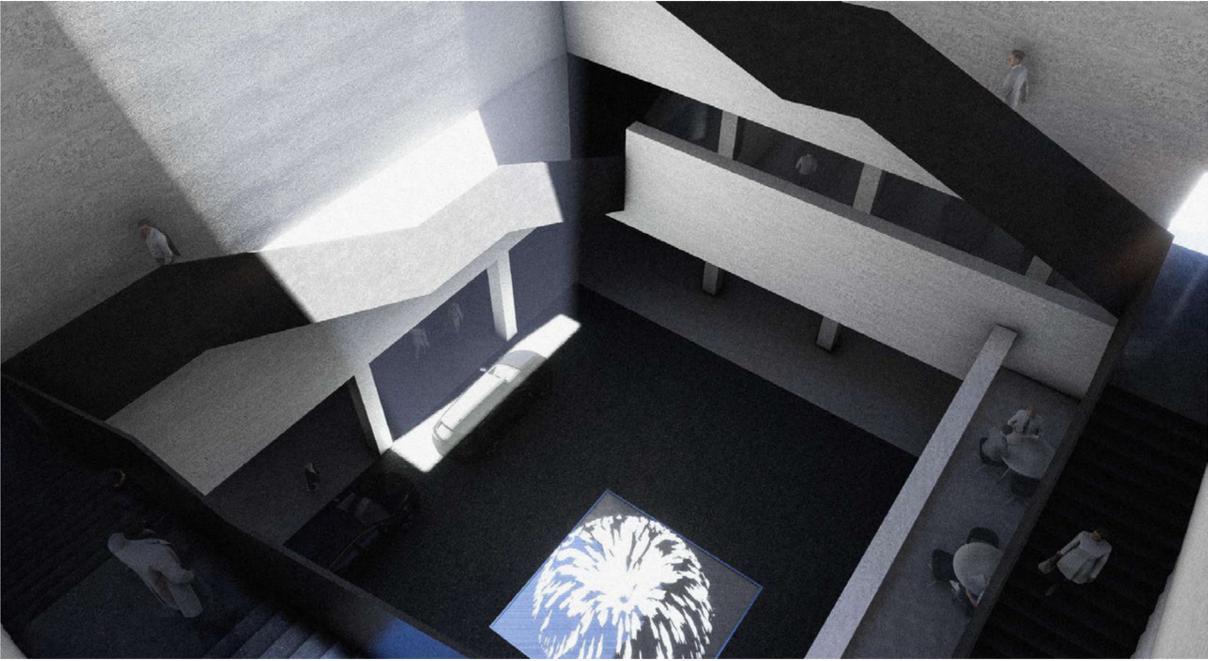
1F 火葬場アプローチ



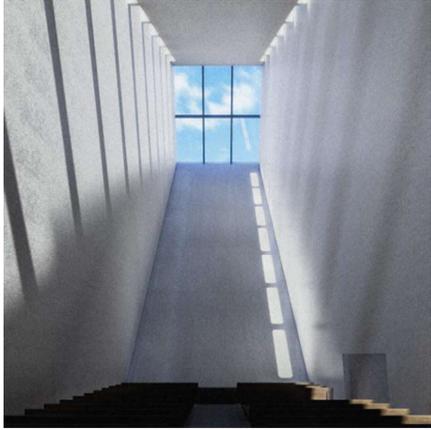
1F 炉前ホール



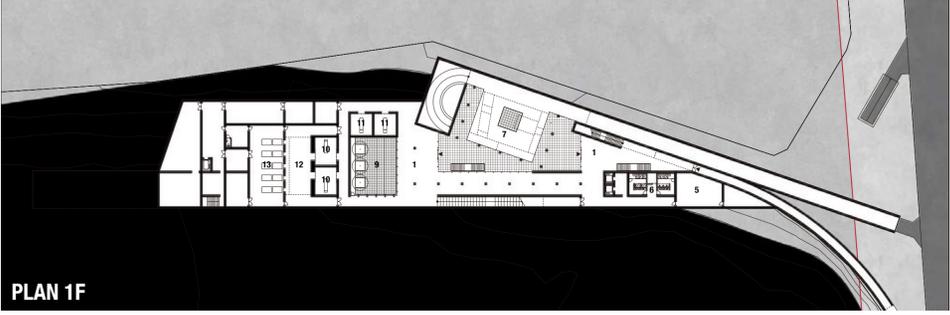
2F 斎場へのアプローチ



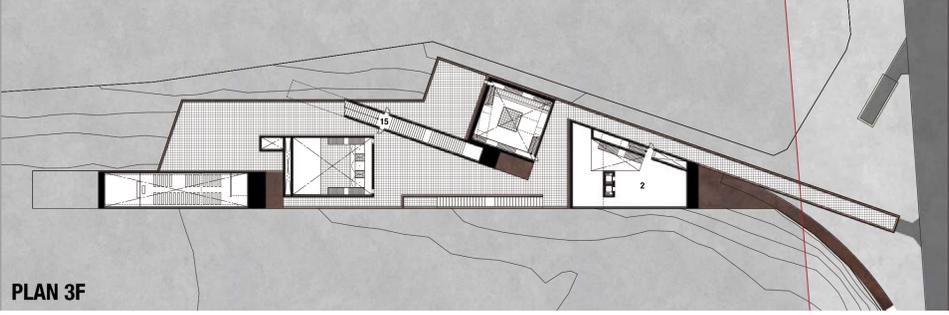
エントランス吹抜けを見下ろす



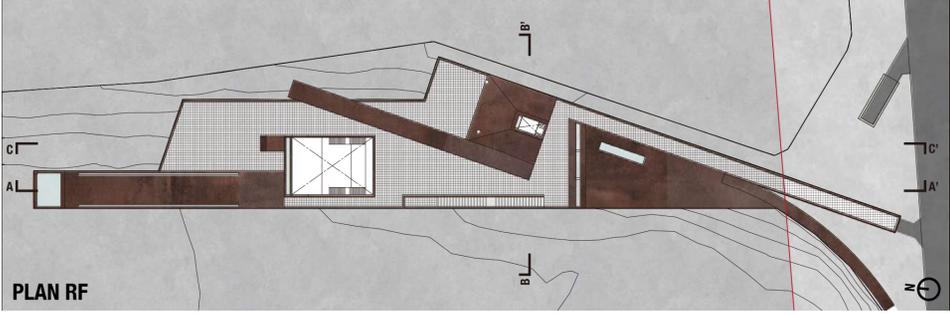
2F 葬祭ホール



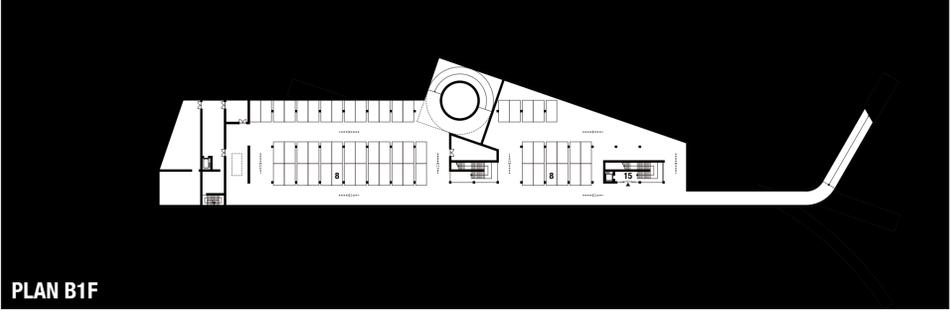
PLAN 1F



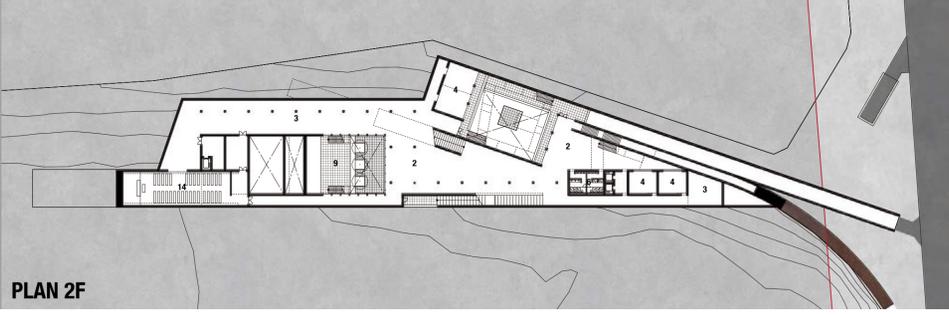
PLAN 3F



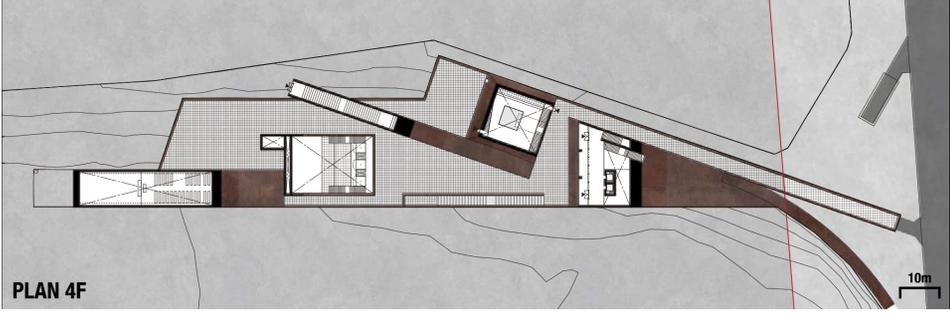
PLAN RF



PLAN B1F

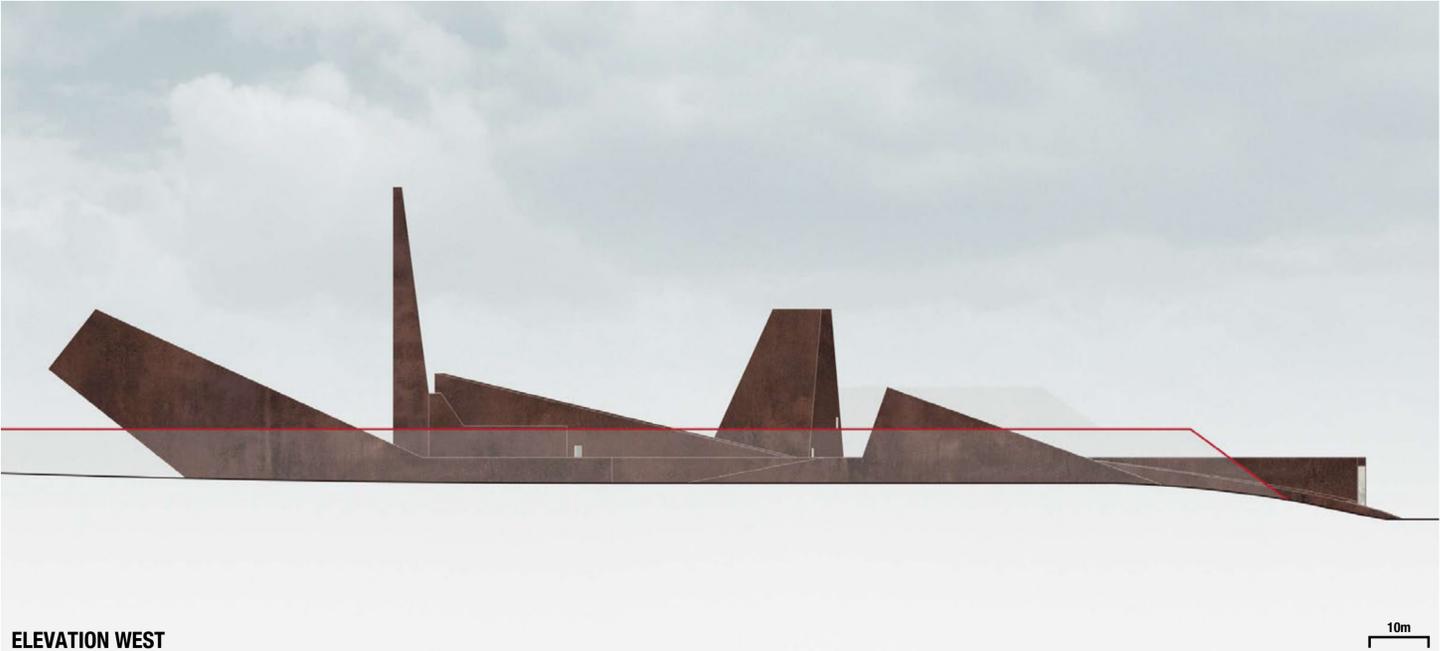


PLAN 2F



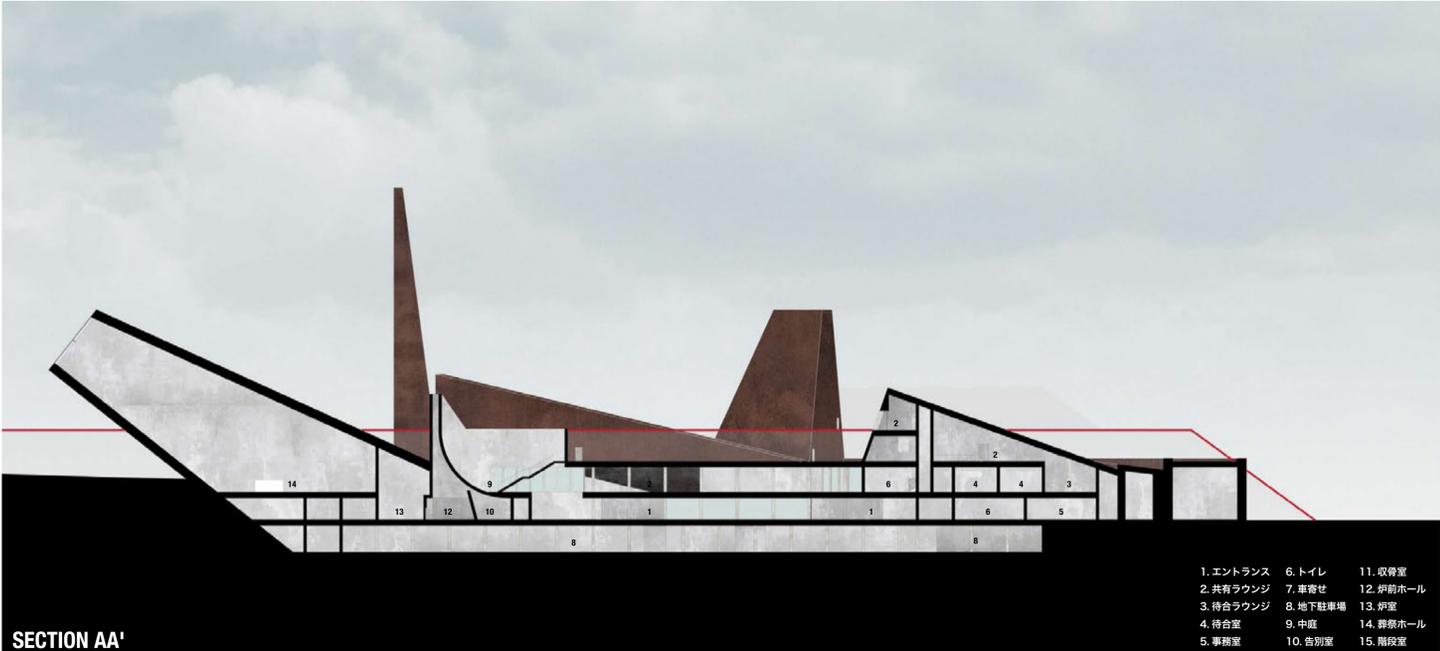
PLAN 4F

10m



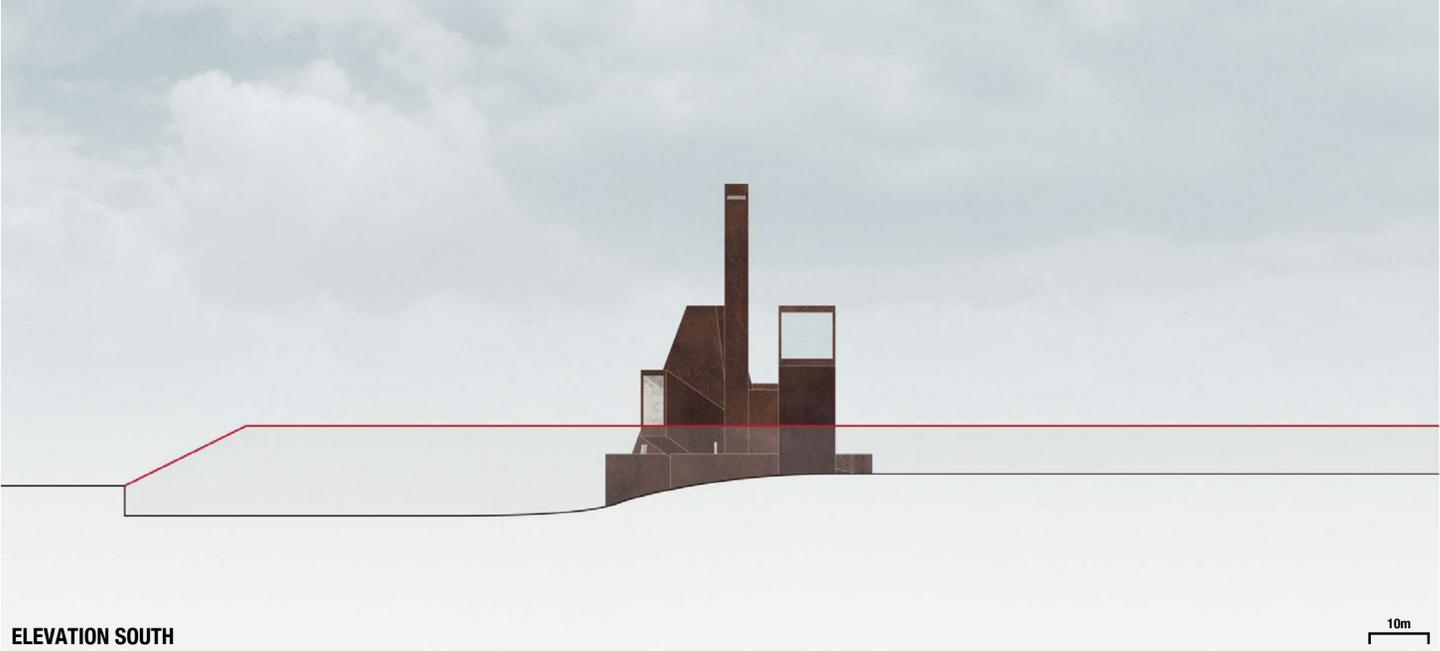
ELEVATION WEST

10m



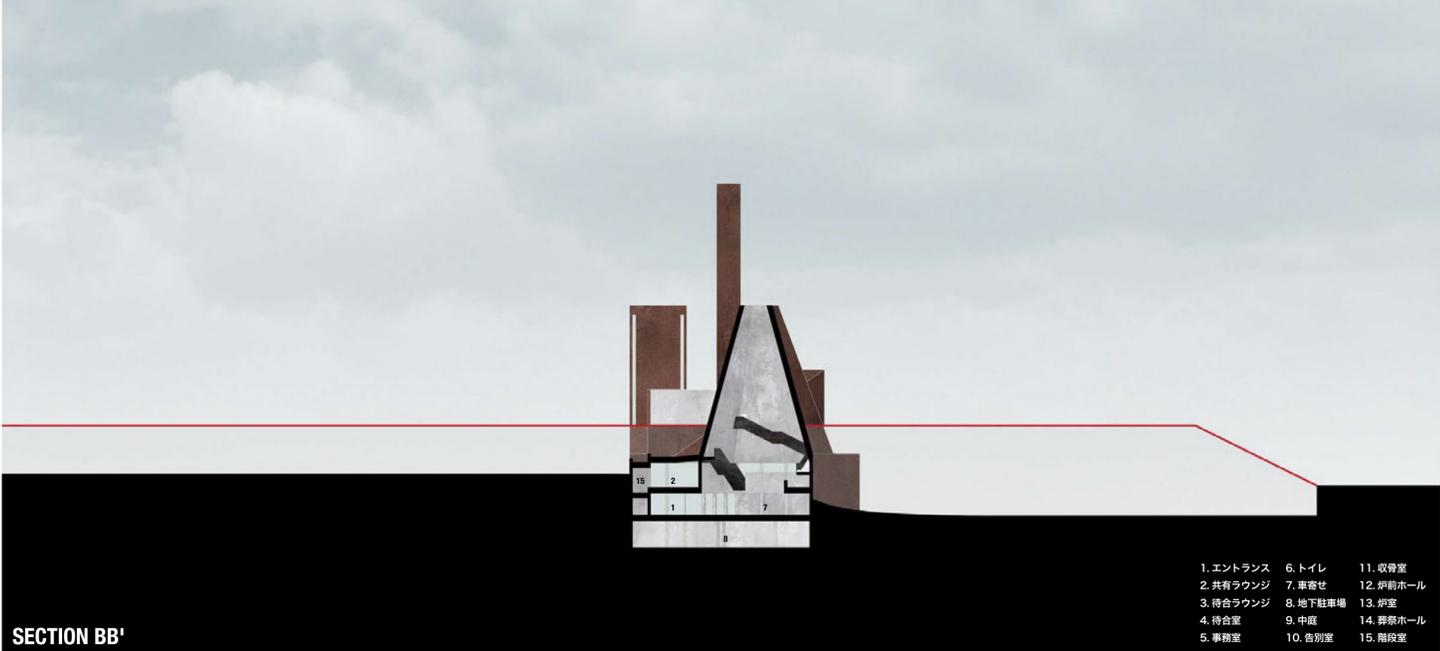
SECTION AA'

- 1. エントランス
- 2. 共有ラウンジ
- 3. 待合ラウンジ
- 4. 待合室
- 5. 事務室
- 6. トイレ
- 7. 車寄せ
- 8. 地下駐車場
- 9. 中庭
- 10. 告別室
- 11. 収骨室
- 12. 炉前ホール
- 13. 炉室
- 14. 葬祭ホール
- 15. 階段室



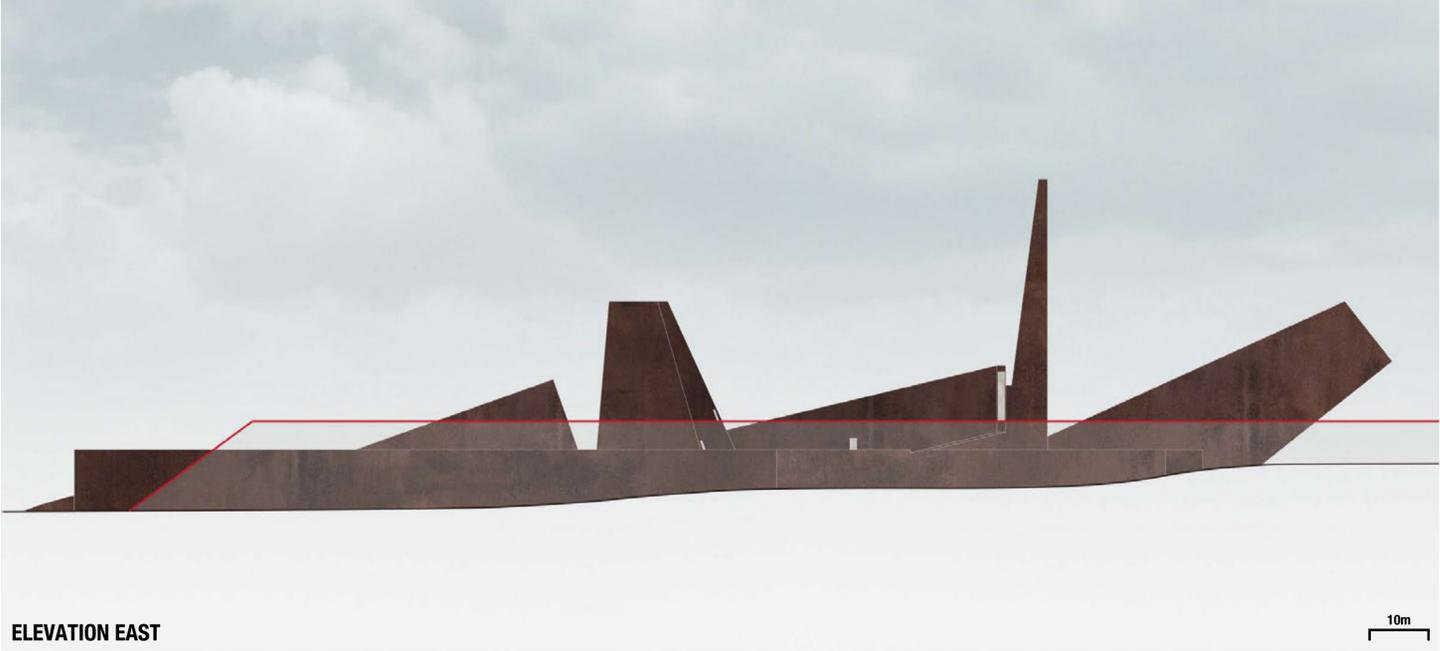
ELEVATION SOUTH

10m



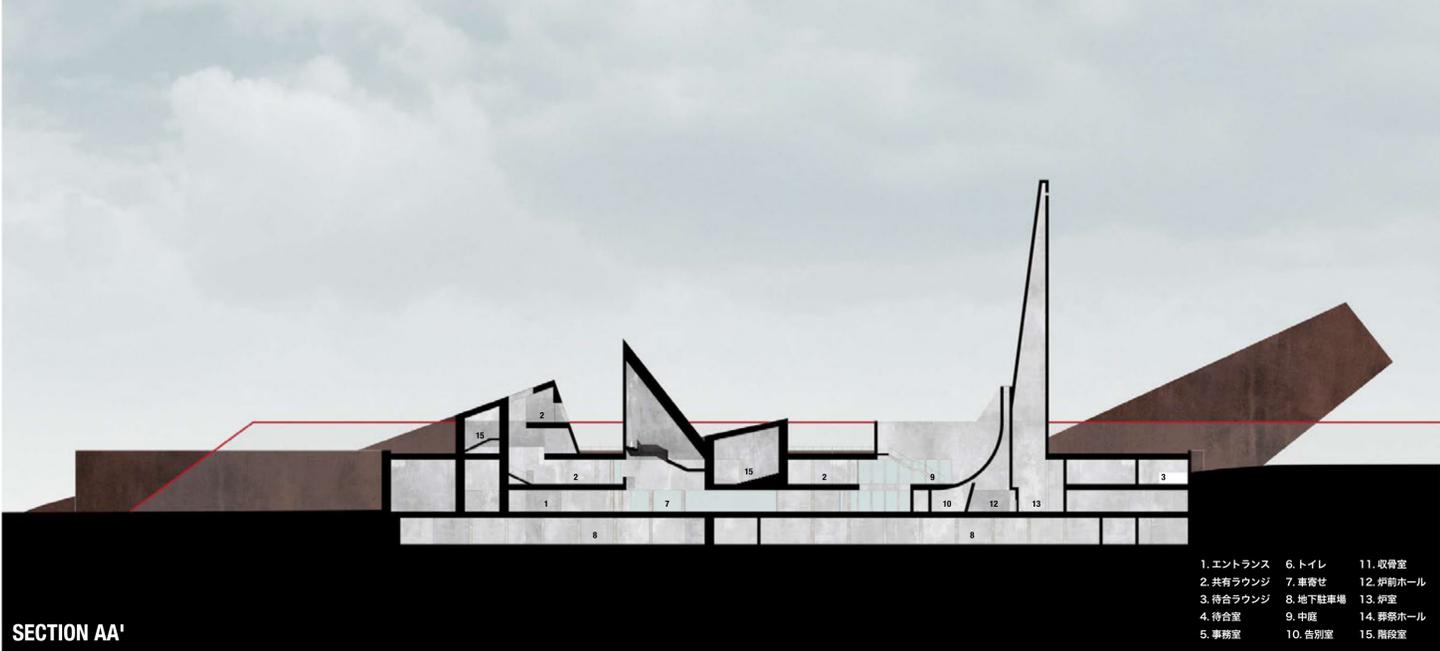
SECTION BB'

- 1. エントランス
- 2. 共有ラウンジ
- 3. 待合ラウンジ
- 4. 待合室
- 5. 事務室
- 6. トイレ
- 7. 車寄せ
- 8. 地下駐車場
- 9. 中庭
- 10. 告別室
- 11. 収骨室
- 12. 炉前ホール
- 13. 炉室
- 14. 葬祭ホール
- 15. 階段室



ELEVATION EAST

10m



SECTION AA'

- 1. エントランス
- 2. 共有ラウンジ
- 3. 待合ラウンジ
- 4. 待合室
- 5. 事務室
- 6. トイレ
- 7. 車寄せ
- 8. 地下駐車場
- 9. 中庭
- 10. 告別室
- 11. 収骨室
- 12. 炉前ホール
- 13. 炉室
- 14. 葬祭ホール
- 15. 階段室